

平成 26 年 12 月 4 日

新「宇宙基本計画」(素案)に対する会員の意見

第 46 期理事会

内閣府宇宙戦略室が発表した新「宇宙基本計画」(素案)に対して、当学会は会員の自由な意見交換ができるラウンドテーブルを 11 月 14 日、第 58 回宇宙科学連合講演会において実施した。併せて、同日の新「宇宙基本計画」を取り上げた特別講演の時間内にアンケートを実施し、広く会員からの意見を求めた。ここに示す意見は会員全体から集めた意見ではないが、新「宇宙基本計画」(素案)に対する会員の意見として紹介する。

◆11 月 14 日に実施した特別講演会場におけるアンケート

新「宇宙基本計画」(素案)を取り上げた特別講演において以下の質問のアンケートを実施した。

Q1 新「宇宙基本計画」(素案)は、政府の方針としてどうお考えですか。

Q2 新「宇宙基本計画」(素案)は、ご自分の立場としてどうお考えですか。

Q3 新「宇宙基本計画」(素案)についてご自由に意見をお書き下さい。

Q1 と Q2 は異なる視点から内容の不足点を問う選択式質問とした。両問とも得られた回答のうち約 3 割が「不足している」を選択し、以下の不足点等を示していた。(以下、✓はアンケートの原文である)

- ✓ 日本宇宙がじり貧化した点に対する分析・反省が見られない
- ✓ 技術基盤育成と産業育成実現に向けての長期ビジョン
- ✓ 産業創出など、時間をかけて考えるべきことが多く、現在のものでは不十分である
- ✓ 日本の独自性
- ✓ 挑戦的なミッション開発の促進
- ✓ 宇宙科学、地球科学を始めとする科学目的のミッションの位置づけ
- ✓ 安全保障頼みでは競争力が出ない
- ✓ 科学技術立国を担う人材育成の観点
- ✓ 若い人、特に子供達へ見せる“ゆめ”の観点が無い

Q3 の自由記述には約 3 割の回答に記述が見られた。明確に問題点の指摘や反対意見を表明している回答は安全保障に重点が置かれたことを指摘している。

- ✓ <前略>元々、国の投資・産業規模が小さい日本で安全保障メインではこれに頼る国内／国頼みの国際競争力のない産業ができるだけ。<中略>欧州、米国は確かに安全保障に一定のリソースを確保しているが、それ以上に科学利用で自由で新規性のあるミッションに投資しているから魅力的で競争力のある宇宙開発／産業になっている。
- ✓ そもそも改訂の経緯自体もわからず、唐突感が否めない。内容も安全保障に偏っているが、そもそも安全保障は宇宙だけで完結するものではなく、またいくらでも広く(狭く)捉えることができるものであり、何にでも「安全保障」という言葉が濫用され、結局いつものバラまきに終わってしまうのではないか。

しかし、安全保障の記述に対して賛成意見も見られた。

- ✓ 安全保障面の研究は日本も積極的に行うべき。日本の基礎研究にも費用・経費面で大きな力となると考える。
- ✓ 安全保証から見ても IGS や QZS を増やすことはよいことだと思います。<中略>衛星が増える

ことでビジネスのチャンスが増えるので妥当である。

賛否を問うことはこれからの議論の場で行うことであるので、ここでは以上の紹介までで留める。

自由意見の記述で多かったのは、基本計画に対する不安の表明である。

- ✓ 内容としては悪くないが、今後の実施について不安がある。本当に実現可能か、実現させられる体制なのか。
- ✓ 日本の宇宙産業にどう、より人と金を呼び込むのか（国内の他分野や他国から）について視点をより強めた方がよいと思う。産業基盤の強化をうたいながら、ビジネスのセンスが不足している様に思われる。
- ✓ 10年間という期間で、今現在世界で解決しなければならない課題が多すぎるかと考えます。
- ✓ 計画を実行するための組織作り、特に人材育成をどのように行っていくかを真剣に考える必要があると感じた。

今回の計画を策定する手順に関する要求もあった。

- ✓ 結局、何をやるのか？何からやるのか？どこに向かうのか？方向性をそろそろ決めてほしい。
- ✓ 優先順位付けが大事であり、かつ課題である。
- ✓ 短期的には「日本の宇宙産業」という視点の重要性は十分に理解する。しかし、長期的には、宇宙開発くらい“競争”とか“もうける”という生臭い目的なしで出来ないものか。地球全体で機能を分担して、効率よく進めたい。そういうイニシアティブを日本はとれないものか。本当の積極的平和。

◆11月14日に実施したラウンドテーブルでの意見

ラウンドテーブル参加者からも口頭で意見が提示された。発言内容は長いので要点のみを記述する。

- ✓ 昨年1月に発表された基本計画に記述されていた宇宙旅行が削除されている。宇宙政策委員会でも重要とされていた項目が何故削除されたか疑問である。
- ✓ 安全保障が前面に出ると、特定秘密保護法により非公開性が強くなり、活動が不透明になる。
- ✓ 具体的な取り組みの記述に關係省庁が記載されているが、とりまとめが記載されておらず、責任の所在が不明確である。

◆今後の要望

本学会では緊急の企画を実施して会員からの意見を集めた。昨年1月に発表された宇宙基本計画から2年を経ずに新たな宇宙基本計画を立てることになった。現状では、宇宙技術者に不安を与えることになった新「宇宙基本計画」（素案）に対して、以下の意見を紹介することで、今後の計画の策定への要望とする。

- ✓ 計画策定にかかる時間が短すぎるのではないか。計画の検討・見直しを継続的に行う体制（人材）が必要ではないか。
- ✓ 昨年の宇宙基本計画には実施工程表があったが、今回は示されていない。企業側としては、計画が立てられない状況なので、早く工程表を示して欲しい。
- ✓ 基本計画も見直しは必要とは思いますが、宇宙開発の特質から数十年見直しもせずじっくりと開発に取り組める環境を整えて欲しい。

以上